

大阪さともりネット 2016

～おもろいなあ大阪の里山～



この冊子は平成 27 年度 林野庁の森林・山村
多面的機能発揮対策交付金事業により作成し
ました。

平成 28 年 3 月

監修 武田義明
前迫ゆり
取材 イラスト 林浩三
ご協力 さともり活動組織の皆さま

大阪さともり地域協議会事務局
(公益財団法人大阪みどりのトラスト協会内)
〒559-0034
大阪市住之江区南港北 2-1-10
ATC ビル ITM 棟 11F 西
Tel 06-6115-6512
Fax 06-6115-6524
satomori@ogtrust.jp
<http://www.ogtrust.jp/satomori/>

大阪さともり地域協議会

目 次

里山づくりの魅力	里山づくりの課題など
守りたい里地里山の景観 1	シカ問題 11
里山とコミュニティー 2	ナラ枯れ / 竹林の侵入・拡大 12
里山と子どもたち 3	里山の危険な動植物・キノコ 13
里山 New Generation 4	安全な里山作業 14
里山づくりの考え方と手法	おわりに
里山と生物多様性 5	さともり人のさまざまな想い 15
森の遷り変りと保全活動 6	里山の果たす役割 16
里山の主な樹種 7	森林・山村多面的機能
キノコ・山菜・昆虫 8	発揮対策交付金事業 17
里山の管理方法 9,10	活動組織マップ 18



守りたい里地里山の景観

交野市森区の一角に昔ながらの風情を残した集落があります。こここの景観は人と里山の古くからの繋がりを物語っています。里山、集落、田んぼ、畑、ため池などがコンパクトに集約され、今後の活動展開がとても楽しみです。

交野市森区は生駒山系の北東部に集落が形成され、山地部分の四季と調和しながら静かに息づいてきましたが、燃料革命や激しい開発により里山は放置され侵入竹の猛威もあり荒廃していたところ、向井壽一氏(故人)が森区山地保全会会長に就任されて以来、山地所有者と区民が一体となり里山の重要性を共有し合い、安全で綺麗な里山再生活動を積極的に始められました。近年は大阪さどり地域協議会の交付金やみどりの募

金等を基に里山の整備も一層活発になり、毎年3月の子供会による卒業記念植樹で桜やもみじの植樹が進み、里山が甦りつつあります。会長の想い、築いていただいたこの輪を継続し、地域住民から愛される「安全で綺麗な里山づくり」を森区山地保全会員(48名)を中心になりこれからも活動を続けていくよう誓い合っています。

森区山地保全会 会計・事務局/向井克喜



里山とコミュニティー

里と地域の伝統を守る

東大阪市善根寺地区ではコミュニティーの再生を図るグループが里山保全活動を行っています。この地域では還暦になると里山の湧き水で酒を醸す慣習があり、酒を交わし「ヤナギ」で作った箸で餅を食して還暦を祝います。山の整備だけでなく、このような伝統行事と里山保全が繋がると、活動のすそ野がより広がっていきます。



ヤマザクラが咲く里山づくり

ここは、もともとトンネルの残土処理地でした。公園にする計画は世話をすると人がなく一時頓挫し、やがてゴミの不法投棄に悩まされ立入禁止となつた谷筋でした。閑空の飛行機の発着が見える景観がもったいないと、近隣の仲間で草刈りやツル切りからはじめてヤマ

ザクラを植林、最近は季節ごとに楽しめる花木を増やしています。今では近隣の学校などと一緒に整備し、「あがらの森」として大阪ミュージアム構想にも加わっています。

泉南の自然を愛する会 仁科武久

里山と子どもたち

森遊び×学び×子育て



「里山キッズクラブ」では、子どもたちが四季折々に里山の自然と暮らしの体験を通じて遊び、学んでいます。体験を通して日本の自然・文化に根差した「日本の自然観」を育み、日本人の在り方である「自然体」を身に着けた持続可能な社会を担う人材が育つことを目指しています。

NPO法人里山俱楽部 新田章伸

里山俱楽部(河南町)には里山の大木にツリーデッキがあります。デッキに登ると町が眼下に広がり、フクロウがこの木に巣を作ったこともあるそうです。

ここでは、「里山キッズクラブ」という連続体験講座を行なっており、子どもたちがのびのびと主体的に遊びながら学んでいます。このツリーデッキもそ

の活動の一環として作られました。

里山での遊びが学びにつながり、子どもたちが育っていく。里山づくりに関わる大人もどんどん元気になって子どもたちを応援する。里山にはそんな素敵なかつらがあります。

里山 New Generation

里山を暮らしの場とする若者たち

生まれ育ちは大阪市淀川区、食やエネルギーの大変さなど感じることなく育ちました。20代では国内はもとより中国、イタリアと世界の災害地にボランティアに行きました。すべての被災地で森との関わりを感じてきました。やがて持続可能性をキーワードに森への関心が膨らみ、その後のご縁で能勢の匠たちに学ぶ機会を得ました。菊炭をはじめとする先人が培ってきた自然や文化の引継ぎに助力できればと、クヌギと会話する31歳の毎日です。

能勢里山創造館 尾澤良平



〈多様化する価値観と里山〉

若者のライフスタイルや価値観は非常に多様化しています。その中で物質的に豊かな時代に育った若者たちの一部にはモノにこだわらないライフスタイルをよしとする傾向があります。彼らは自給的な暮らしを志向し、最低限のライフラインとインターネットがあればよいのです。ライフスタイルを小さく最適化することで余る時間は農的暮らし・自己啓発旅などの活動に充てます。

大阪府内にも、例えば、可能な限り自給的な暮らしを営みつつ、「菊炭」の弟子となり働く若者がいます。

また、ある所では里山の古民家をベースに「森のようちえん」を開設する事例も始まっているほか、里山シェアハウスを作るという動きも出始めています。

彼らはSNS等のネットワーク上では繋がっているものの、団体としての活動エリアを持つわけではなく、組織化もしないので、目立ちませんが、これまでの里山保全活動や「林業女子」、自伐型林業などの動きと彼らがリンクすることで、より暮らしに根差した里山保全が広がる可能性があるのではないかでしょう。

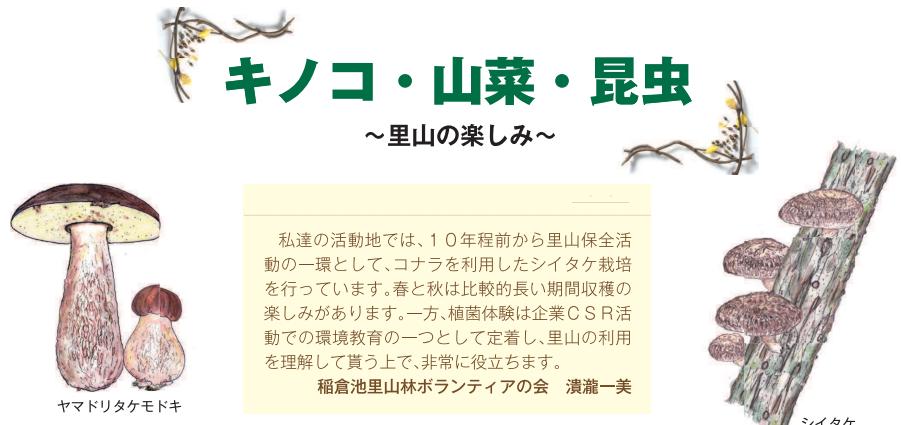




これらの常緑樹は除伐しましょう。ヒカキなど常緑の低木類は増えると見通しの悪い暗い森になります。ソヨゴ、ヤブツバキは背の高い大木にはなりませんが同様に森を暗くします。特に、シロダモ、アラカシなど背の高い大木になる樹種は林床を暗くすることはもちろん、大きくなりすぎると、伐採することも困

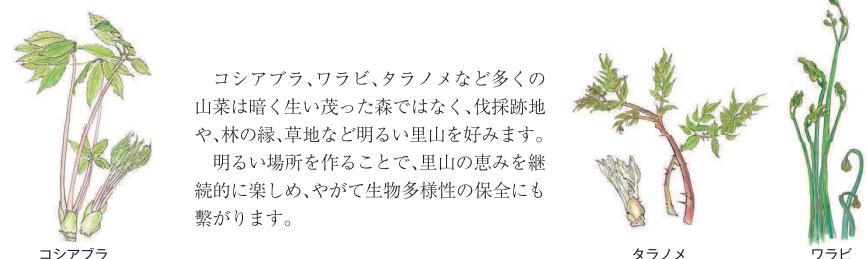


これらの、落葉の明るい雑木林をつくる樹種を残します。クヌギ、アベマキ、コナラは薪炭林やシイタケのほだ木として利用、またエノキなどがあると様々な昆虫類も増えてきます。春のコバノミツバツツジやヤマザクラ(北摺にはエドヒガンも自生)も里山風景としてとても美しいものです。



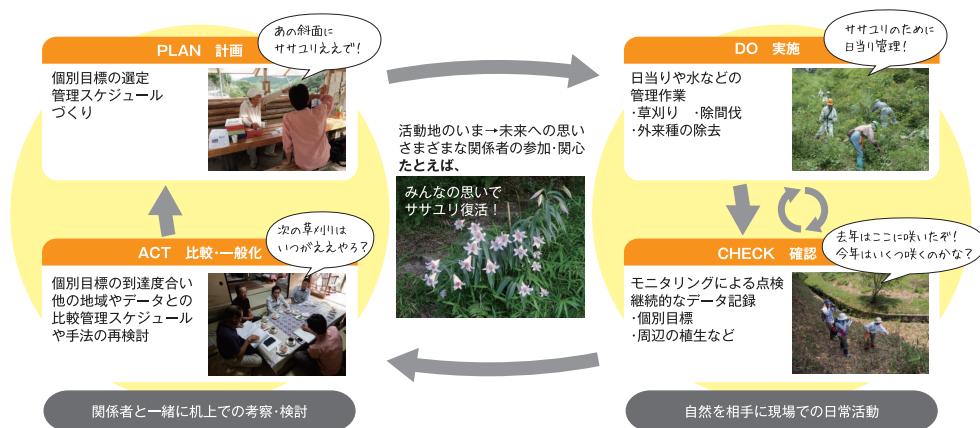
シイタケ栽培にはコナラが適していますが、多くの広葉樹(カバノキ類、サクラ類など)でシイタケやナメコなどの栽培が可能です。伐採木の利用拡大にもなりおすすめです。

林をきれいにして適度な明るさにすると、樹木と共生するキノコは、よく発生するようになります。ヤマドリタケモドキなど美味しいキノコもあるので専門家にアドバイスをもらうとよいでしょう。



里山の管理方法

順応的管理のサイクル



いろいろな里山の管理方法

薪炭林



樹 特

種 クヌギ、アベマキ、コナラ、ナラガシワ等

徴 一度、クヌギなどの薪炭林になると、伐採、萌芽更新を15年前後で繰り返し、効率的に林を再生させ薪炭生産を行うことができます。何度も萌芽更新を繰り返すと「台場クヌギ」という独特的の樹形になります。能勢町では古くからクヌギの薪炭生産が行われ、台場クヌギを見ることがあります。

整 備

基本的に主要樹種以外は除きます。エリアごとに伐採時期をずらせば定常的な薪の生産ができます。

生物 多様性

明るく里山特有の草本類・昆虫類が多く、また、ドングリが実るのでネズミ類も多く、フクロウなどの餌場となります。

樹 特

種 ヤマザクラ、クリ、クヌギ、エノキ等

徴 多様な樹種で構成される林です。例えばヤマザクラやツツジなどを残せばお花見も楽しめる美しい林になります。

整 備

それぞれ目的に応じて利用したい木を残します。アラカシ、シロダモやヒサカキなどの常緑樹を除くと明るく心地よい雑木林になります。

生物 多様性

多様な樹種のあることから多様な生き物を観ることができます。例えばオムラサキの幼虫はエノキを食べます。成虫はクヌギの樹液を吸いに来ます。

落葉樹の雑木林



アカマツ林



樹 特 整

種 アカマツ、コバノミツバツツジ等

徴 かつて里山の多くがアカマツ林でした。それは燃料等で里山の樹木を限界まで利用したため、日当たりのよい明るく乾いた場所にはアカマツが一番育ちやすく、再生しやすかったためです。

備 元来、アカマツは尾根筋のような他の樹木が育ちにくいところに林を作ります。植樹する際にはこれらも考慮しましょう。マツ以外の高木は除き、落ち葉を除きます。マツタケ山の再生に挑戦するのもよいでしょう。この場合、マツタケに適した明るさになるようにコバノミツバツツジなどの低木も残します。

生物 多様性 單一林のため種数は少ないものの、アカマツ林特有の動植物・キノコもあります。

竹林



樹 特

種 モウソウチク、ハチク、マダケ

徴 竹林の拡大が問題視されていますが、適切に管理された竹林は清々しく美しいものです。タケノコも楽しみのひとつです。

整 備

古い竹から伐採します。傘をさして歩きまわれるくらいの密度が相応しいとされています。タケノコ生産の場合は施肥もしますが一般的な里山の竹林ではその必要はないでしょう。

生物 多様性 種数は非常に少ないです。モウソウチクが筏・タケノコ、ハチクが農業資材や茶道具、マダケが竹籠などの材料にそれぞれ使われるという里山文化的な側面もあります。

林縁や道端



樹 特

種 イヌビワ、ヌルデ、ヤブムラサキ、クズ等

徴 林縁や道端は日当たりが良く、様々な低木類やツル性植物・草本類が生育しています。これらは「マン群落」「そで群落」と呼ばれ、湿度、風速等を均衡させ林内環境を安定させる効果があるとされています。

整 備

林内環境安定効果と景観等を考慮し適度に下刈り等を行います。道端は作業道として適切に草を刈りましょう。

生物 多様性

多種多様な生き物の棲家となっています。また草刈りされた日当たりのよい道端にはしばしば希少な草本類も見られます。

水辺、湿地、草原



樹 特

種 ヤナギ類、ハンノキ類、サギソウ、オミナエシ等

徴 里山の現状と同様に、水辺や湿地、草原も放置されていることが多く、遷移により急速にその環境が失われつつあります。

整 備

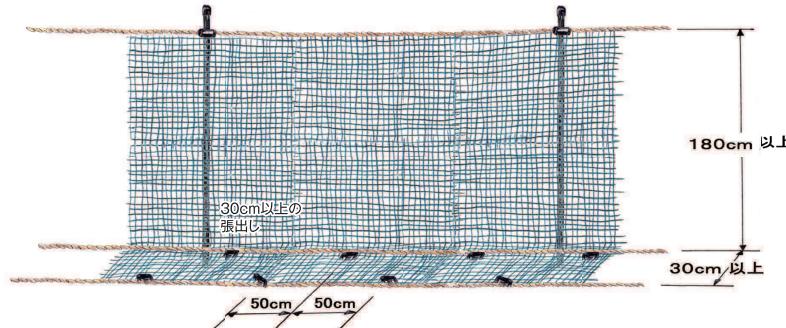
湿地は里山からの食料・水と粘土の供給が不可欠で湿地周辺の里山再生とセットで行います。また日陰にならないよう湿地の中や周辺の樹木を取り除きます。

草原は守りたい植物がある場合はその花期等を考慮し適切な時期に草刈りを行います。

生物 多様性

湿地や草原の環境は急速に失われていることからカスミサンショウウオ、ハッショウトンボ、トキソウ、オミナエシ、キヨウなど湿地や草原の環境特有の生物も絶滅の危機にあります。

シカ問題



■シカ被害

明治中期以降、シカの頭数は少なくなっています。戦後は保護のためメスジカが狩猟禁止にされていたほどです。ところが現在、狩猟者の減少・高齢化、里山環境の変化によりシカの頭数は急激に増えています。

特に生息密度の高い場所では、苗木や枝葉の食害、皮剥ぎによる樹木の枯死などの被害が多くあります。またシカがササなどを食べ下層植生が貧弱になると、土壤浸食が起こりやすくなり、土砂災害につながる危険性もあります。

■防除方法

防除と捕獲の両輪で行うことが重要です。捕獲や狩猟に比べ、柵の設置はボランティアで作業ができるので有効な手段です。柵を設置するときは尾根筋に設置、下部からの進入を防止するよう地面に30cm以上の張り出しつくりベゲでめくれないようにします。ネットは、シカの口が入らない5cm目以下が望ましく、下部1mはステンレス入りを使うとより効果的です。一度ネットを破り、下部から進入できることを学習すると何度も再発しますので徹底的に侵入できないように維持管理します。



■シカ害と生物多様性保全

特にニホンジカの生息密度が高い場所では、食害により下層植生が貧弱となります。希少種も含めた植物の種数の減少と共に、これを食草とする昆蟲類の種数が減少、さらには絶滅する場合もあります。例えば「車作の森」(茨木市)にはキツネノカミソリの大群落がありましたが、シカ害により極端に自生地が少なくなりました。

ナラ枯れ



■メカニズムなど

ナラ枯れは、コナラ、シイ・カシ等を枯らす病原菌とその菌を運ぶ昆虫(カシノガキクイムシ)により引き起こされます。罹患した木の幹にはカシノガキクイムシが穿入した2mmくらいの孔がたくさんあり、孔から粉状の木屑(フラス)が出て根元にたくさんたまっています。

■防除方法ほか

ナラ枯れに罹りやすい大径木の多い林から、薪などの利用により林を若返らせると罹患しにくくされています。ナラ枯れ被害の度合いにより、伐採・防除方法が異なりますので、専門機関に相談しましょう。また安全を考慮し、林道や歩道に近い枯れた被害木を優先的に伐採し処理します。大径木の伐採は森林組合等の専門家に依頼しましょう。



■ナラ枯れ材の利用

秋から冬に伐採し早めに(サナギになる前)に炭にすればよいですが、それ以外、ナラ枯れ材は移動しないことが原則です。薪割りして十分乾燥させて現地消費することも有効とされています。

参考文献:ナラ枯れ被害対策マニュアル (社)日本森林技術協会

竹林の侵入・拡大



■竹林の侵入・拡大による問題

里山林、造林地、果樹栽培地への侵入による被害、イノシシなど獣の隠れ家となる、生物多様性の劣化、等の問題から竹林を適切に管理することが必要です。

■管理方法

竹の密度を適正に管理すると、拡大しにくくなります。また皆伐した後にたくさん出てくる細い新竹をこまめに切り取ります。

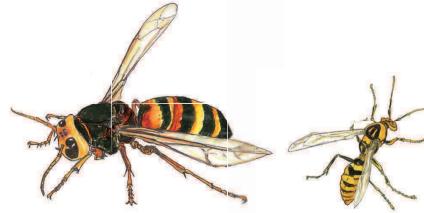
伐採後は枝を切り落とし、梢と枝を分けて処理します。図のように一箇所に集積すると作業の安全・効率が高まり、景観的にもよいです。チップがあれば竹チップをつくり歩道等に敷いて利用ができます。



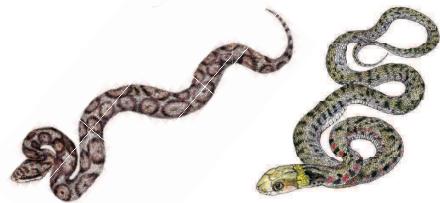
効果的な竹林対策については群馬県のあるNPO団体が行っている「1mの高さで切ると、根まで枯れる」という記事が農業関係の雑誌に載り、話題になっています。方法は、12月~2月までの間に1mほどで竹を切ると、マダケなどの細めの竹なら1年後、肉厚なモウソウチクだと2~3年後には倒れるだけで竹が根元からスッポッと抜けます。一度試す価値はあります。

里山の危険な動植物・キノコ

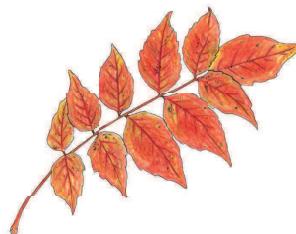
これらの危険な動植物・キノコにより被害を受けたときは、安静にするとともに速やかに医療機関で処置をしてもらいましょう。またできるだけ発生時期や棲息場所を避けて作業しましょう。



スズメバチやアシナガバチなど



マムシ ヤマカガシ



ヤマハゼなどウルシの仲間

よく水で洗い流し、濡れタオルなどで冷やすと効果的です。

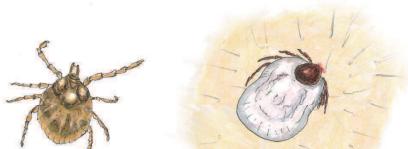


クサウラベニタケ

中毒例の多い毒キノコです。

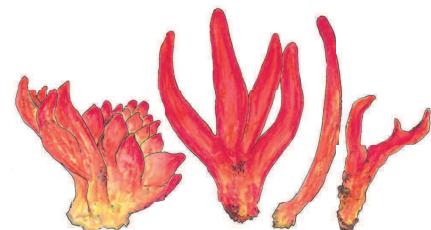


誤食すると死に至る猛毒キノコです。



マダニ

長袖、長ズボンで、裾を靴下・手袋などに入れてマダニの侵入を防止します。活動後は刺されていないか確認し、入浴して身体を洗い付着したダニを落とし、衣服は洗濯します。吸血中のマダニは、無理に取り除かず皮膚科で処置してもらいましょう。数週間の間に発熱等の症状がでたら感染症を疑い病院を受診してください。



カエンタケ

キノコに触れるだけで炎症を起こすほど猛毒です。大阪府内でも確認されていますので注意しましょう。

安全な里山作業

■作業の前に

- ・救急病院の場所と連絡先を確認しておきましょう。また携帯の受信可能場所をあらかじめ確かめておきましょう。
- ・熱中症の危険が高まる夏やハチの活動期などを出来るだけさけて安全な年間スケジュールを決めましょう。
- ・作業前には危険予知、準備運動を行い、休憩も計画的に取りましょう。
- ・山仕事に適した服装・靴・ヘルメットを着用しましょう。
- ・初めてカマなどの道具を使うときは、必ず作業リーダーに安全な使い方を教えてもらいましょう。
- ・草刈機などの動力機械は必ず取り扱い講習、安全講習を受けましょう。

事例 1

2012年 岐阜県大垣市の公園の森林で、木の伐採などの体験学習に参加していた小学1年生の女の子の頭に、10メートルほどの高さから杉の枝が折れて落ちて当りました。警察によると、折れた枝は長さがおよそ3メートル、重さは5キロあり、Aさんは意識不明の重体となっています。(その後死亡)

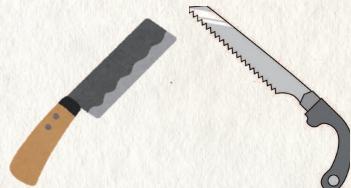
当日は、公園内で小学生らを対象にした木の伐採や木工などの体験学習会が開かれていて、Aさんも両親らと参加し、事故当時はほかの参加者と間伐作業についての説明を受けていたということです。

Aさんを含めた全員、ヘルメットをかぶっていなかったということで、警察が事故の詳しい状況や安全管理に問題がなかったかなどについて調べています。

参考 1

森林ボランティア保険(NPO法人日本森林ボランティア協会扱い)の集計によると、事故件数が最も多いのが、「作業中の転倒事故」で中でも急傾斜地で足を滑らせて転倒するケースが多く、次いで多いのが、「ハチ等の虫刺され」です。

刃物使用中の事故では、ノコギリ、ナタよりも、カマ使用中が最も多いです。



参考 2

事故を防ぐためには、安全な装備が大切です。例えば、手袋は普通の軍手より、滑り止め付の軍手、さらに皮手袋があれば、ちょっとした切傷なども防ぐことができます。足元もスニーカーなどは滑りやすいので危険です。軽登山靴や長靴、地下足袋、安全靴がおすすめです。刈払い機作業の時は防護メガネ、チェーンソー使用時はチェーンソー防護衣を身に着けるようにしましょう。

保険に必ず加入しましょう。

森林ボランティア向けの保険があります。

- ・ボランティア活動保険
社会福祉法人 全国社会福祉協議会(チェーンソーは対象外)
- ・森林ボランティア保険
NPO法人 日本森林ボランティア協会など
(チェーンソーも対象となるタイプあり)

救急・救命に関する講習を受けましょう。

- ・日本赤十字社
- ・消防署
- いざという時、役立つために何度も受講し技能をステップアップしましょう。

里山整備に関連する法律、手続き等

森林等を伐採したり、開発するときは関連法律(森林法・自然公園法など)並びに条例を守りましょう。
不明な場合は大阪府、各市町村の関係当局に確認しましょう。

- 大阪府北部農とみどりの総合事務所
電話/072-627-1121(代)
- 大阪府中部農とみどりの総合事務所
電話/072-594-1515(代)
- 大阪府南河内農とみどりの総合事務所
電話/0721-25-1131(代)
- 大阪府泉州農とみどりの総合事務所
電話/072-439-3601(代)

さともり人のさまざまな想い



高槻里山ネットワーク
岡野光伸

高槻里山ネットワークは、平成27年度「ふれあいの森づくり」国土緑化機構会長賞を受賞し、全国育樹祭式典（於：岐阜県）で表彰されました。この賞は、市民のふれあいの場となる森林づくりに顕著な実績をあげた市町村等を表彰するもので、当会が平成14年度設立以降、継続的に実施してきた多様な活動が評価されたものです。



茨木里山を守る会
佐野 賢

平成26年、林野庁主催「平成26年度森林病中獣害防除コンクール奨励賞」を受賞しました。私たちの活動地が、3年前からナラ枯れ（カシノナガキクイムシ）被害に直面したことから取り組みました。活動日数80日・延べ人数339人を投入した地道な活動が評価されたものと思っております。地域自治会・行政（茨木市農林課・大阪府農と緑）の後押しに感謝しております。



上原里山再生プロジェクト
堀 泰明

上原里山再生プロジェクトとは、河内長野市所有の上原都市環境緑地にて、河内長野市と指定管理者（公財）河内長野市公園緑化協会とNPO法人森林ボランティアトモロスの3者にて上原里山再生プロジェクトを発足し、蔽化した緑地の再生に取り組んでいます。作業開始から約2年が経過し、竹に負けそうになっていた雑木にも陽があたるようになり、従来の環境を取り戻しつつあります。今後は遊歩道なども整備し、数年先には市民の憩いの場となるよう活動を進めていきたいと思っています。



千里第4緑地植生管理組織
塙田敏治

今年で81歳になりました。田舎の出身、草刈り機は使っていましたが、きちんと勉強したいと思い、動力機の講習にも参加しました。毎年保全活動を重ねると、春にはタケノコや花や芽吹きが見えて、ご近所や市役所から「綺麗になった！」と言われるのが喜びです。ヒメボタルが象徴ですが、モウソウチクを整理したとんに増えました。楽しみがないと5年10年続きませんね。



みさき里山クラブ
立石弘一

大阪府の最南端、和歌山市に隣接する、みさき里山クラブの拠点地「孝子の森」は2003年に設立された。設立間もなくから、毎年來訪者はある。平成26年度は1616人の來訪者があった。我々のカウントで創設依頼7522人になった。そのうち、子どもたちは4000人以上になる。

加えて休日にはハイカーが、個々にやって来て孝子の森を楽しんでくれている。この人数はカウントできないが、想定すれば500人以上あるようで、近年は年間2000人は來訪者があると思う。一度來訪したグループはリピーターとなり毎年來てくれる。岬町内の幼稚園・小学校・高等学校・隣接の和歌山大学生等は10年以上のリピーターもあり、遠足や学習を楽しんでくれている。

孝子駅から歩いて15分の近さが最大の利点で、誰でも歓迎する我々の喜びの姿勢も分かって貢献しているようだ。子どもたちの声が山に登って来ると、我々はワクワクして、一緒になって遊ぶ。

原則として「ダメ！」は禁句にして、フリーに遊ぶ姿を見守っている。子どもたちに元気を貢って、我々平均70歳のグループは、ますます元気になる。子どもたちのお母さんたちとの会話を楽しみ、お父さんたちは里山の面白さを話し合い、子供に返って一緒にになって楽しむ。

「明るく 元気で 無理をせず 楽しくやろう！」をモットーにまだまだ頑張るぞー！！



NPO法人里山俱楽部
西川阿樹

～私が心がけていること～
必要なことは言う。ただし、言うからには、若輩者として、先に身体を動かし、それから発言する。多様な参加者の間を通訳する。女性である感覚を大切にする。休息の合間、作業の終わり、温かな珈琲や柔らかなコミュニケーション、疲れをちょっと軽くできるような、明日も元気に作業に向かえる、そんな空気を大切にする。何より笑顔を大切にする。



里山の果たす役割

里山は人々の生活のために利用されてきた山です。昔は里山から採集してきた柴や下草を肥料にして田や畑に入れたり、立木は薪や炭として家庭の暖房や炊事のための燃料に利用されてきました。ところが肥料は化学肥料になり、燃料は石油、石炭、電気に変わり、里山が管理されず放置されるようになりました。里山は人間によって作り出されたとはいっても、長期間にわたり管理が続けられてきたので、原生林とは異なるが新しい生態系が形成され、比較的豊かな生物相を作り出してきました。放置されると里山は荒廃し、植生およびその構成種も単純化し、生物多様性が低下します。

里山は利用されなくなったとはいって、二酸化炭素の吸収・酸素の供給、水の浄化、洪水防止などの自然環境保全機能や森林浴など心身をリラックスさせてくれる保健機能は私たちにとっては重要です。これまで生産林として里山林を利用していましたが、これからは自然環境を守ってくれる環境林として保全・管理していく必要があるでしょう。しかし、昔の里山管理は生活に密着して行われていたので、保全のためだけの管理では困難だと思われます。NPOや地域住民が管理を行うに当たっては、その意義や楽しみを感じなければ継続はできないでしょう。そのためにこのパンフレットが役に立ってくれるでしょう。

大阪さともり地域協議会 会長 武田 義明

里山は薪や炭、肥料などを得るために人手により維持されてきた二次林です。私の子どもの頃は、都市の住民も薪で炊事し、暖房には木炭を使っていました。しかし終戦後、燃料は石油やガス、電気に変わり、化学肥料が普及しました。そのため里山の価値は低下し、開発されたり、荒廃したりし始めたのです。

半自然の林ではありますが、里山は新鮮な空気や水の供給、洪水の防止などの機能をもつほか、生物多様性に富む生態系は私たちの心身を癒すとともに、自然観察や環境教育の場でもあります。里山はいまでも重要な存在なのです。この冊子には、里山の自然の成立ちや管理方法だけではなく、保全する意義や楽しみ方も書かれています。この冊子により里山の自然が再生し、野生生物の賑わいが戻ることを期待しています。

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会 会長 石井 実



森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

平成 25 年度から始まった林野庁の交付金事業で、
その内容は、

1. 荒れている里山林や竹林の手入れを行う
2. 薪などの地域の資源を活用する
3. 森林整備のための作業道を作る
4. 子どもたちに森の中で自然体験を経験させたい！

それらを行うための資材を購入する。

以上のような活動に対して支援を行うという制度です。

支援を受けるには、

1. 3名以上の構成員で活動組織を立ち上げる
2. 森林所有者と協定を結ぶ
3. 活動計画書を作成して、地域協議会の審査を受ける

※現在大阪府では 67 の団体を支援しています。

大阪の地域協議会は、

大阪さともり地域協議会

TEL.06-6115-6512 FAX.06-6115-6524 E-mail satomori@ogtrust.jp

詳細はお気軽にお尋ねください。

【その他問合せ先】

林野庁 森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室 担当者：山村振興指導班
代表：03-3502-8111（内線 6145） ダイヤルイン：03-3502-0048
大阪府 環境農林水産部みどり推進室森づくり課森林支援グループ
電話：06-6210-0351（内線 2759）

助交付組織名一覧

NO	組織名	該当市町村
①	ニッポンバラタナゴ高安研究会 里山保全活動組織	八尾市
②	泉原の自然林を守る会	茨木市
③	稻倉池里山林ボランティアの会	泉佐野市
④	車作里山俱楽部	茨木市
⑤	桃花塚里山林保全の会	富田林市
⑥	いすみの森の会	和泉市
⑦	和泉の里山を守る会「やまびこパー」	和泉市
⑧	みさき里山クラブ	岬町
⑨	千里第4緑地植生管理活動組織	吹田市
⑩	NPO法人森のプラットホーム高槻	高槻市
⑪	高槻里山ネットワーク	高槻市
⑫	NPO法人どろみの森クラブ	箕面市
⑬	NPO法人島森のクラブ	島本町
⑭	交野里山ゆうゆう会	交野市
⑮	枚岡地区鎮守の森づくり実行委員会	東大阪市
⑯	日下山で市民の森にする会	東大阪市
⑰	里山俱楽部	河南町
⑱	交野さともりの会	交野市
⑲	森区山林保全の会	交野市
⑳	意賀美神社森づくり委員会	泉佐野市
㉑	中田尻の森薪炭林育成会	能勢町
㉒	野入山(野間出野)保全の会	能勢町
㉓	岸和田丘陵地区まちづくり協議会	岸和田市
㉔	泉南の自然を愛する会	泉南市
㉕	茨木市下音羽・長谷地区竹林保全協議会	茨木市
㉖	茨木市佐保・岩阪地区竹林保全協議会	茨木市
㉗	島本町尺代地区竹林保全協議会	島本町
㉘	錢原共有林管理組合	茨木市
㉙	富田林里山の会	富田林市
㉚	NPO法人クワガタ探検隊	箕面市
㉛	南河内林業地区推進協議会	河内長野市
㉜	河内長野市林業地区推進協議会	河内長野市
㉝	特定非営利活動法人 池田炭振興協会	能勢町
㉞	神里山を守る会	能勢町

大阪さともり地域 協議会申請地 活動組織マップ



NO	組織名	該当市町村
㉟	地黄里山を守る会	能勢町
㉟	美具久留御魂神社の森保全の会	富田林市
㉟	特定非営利活動法人 自然エネルギーを利用する会 千早赤阪	千早赤阪村
㉟	茨木里山を守る会	茨木市
㉟	和泉葛城山「アメノクシ」活動組織	貝塚市
㉟	大阪経済法科大学 ECO～る⇒KEIHO 里山保全活動組織	八尾市
㉟	大阪府森林組合南河内支店	千早赤阪村
㉟	大東の森保全会	大東市
㉟	茨木丸森の会	茨木市
㉟	くろんど園地さんざくの森つくり隊	交野市
㉟	箕面森の学び舎「くまいりの会」	箕面市
㉟	本山寺山森林つくりの会	高槻市
㉟	うみへの森を育てる会	岬町
㉟	茨木ふるさとの森つくり隊	茨木市
㉟	極楽寺森づくり委員会	泉佐野市
㉟	堂中山薪炭林育成会	能勢町
㉟	上原里山再生プロジェクト	河内長野市

NO	組織名	該当市町村
㉟	NPO法人 森林ボランティアモロス	河内長野市
㉟	山辺里山を守る会	能勢町
㉟	高槻市畠畠地区里山林保全協議会	高槻市
㉟	切畠里山を守る会	豊能町
㉟	大里里山を守る会	能勢町
㉟	高槻二斗地区里山林保全協議会	高槻市
㉟	私部飛地をまもる会	交野市
㉟	茨木市千堤寺・泉原地区竹林保全協議会	茨木市
㉟	高槻市横原地区竹林保全協議会	高槻市
㉟	南河内の森林を保全する会	河内長野市
㉟	柏原市商業地区推進協議会	柏原市
㉟	善根寺町自治会	東大阪市
㉟	歌垣森林保全の会	能勢町
㉟	山内ヶ丘区里山保全の会	能勢町
㉟	能勢妙見山「ナガミ」の会	能勢町
㉟	うなぎの森協議会	高槻市